

## 製品名 ナウベイス

ご使用の前に本書をよくお読みのうえ作業を行ってください。

また、お読みになったあとは、本書はいつでも取り出せる場所にならず保管してください。

※交換後のトラブル等については、弊社では責任を負いかねますのでご了承お願いいたします。

※本書による作業は、弊社とご契約いただいているレンタル事業者様に限ります。

※修理品の代替品について、発送と返却の費用はお客様負担となりますのでよろしくお願いいたします。

### <もくじ>

P1・・・作業前の確認事項、作業時の注意事項

P2・・・各部名称

P3・・・ブレーキゴム交換方法

P4～6・・・ブレーキ調整方法

P7～9・・・車輪交換方法

## 作業前の確認事項

- 駐車ストッパーおよびハンドブレーキが確実に動作するか確認してください。
- 車体を押したときにまっすぐ走るか確認してください。
- 全ての車輪が均一に地面に接地するか確認してください。
- タイヤおよびブレーキの摩擦、変形などが点検し、必要に応じて交換してください。
- 車体の開閉がスムーズに行えるか確認してください。
- 製品各部のカシメ、ネジ、ナットの緩みおよび破損がないか確認してください。

## 作業時の注意事項

- 作業時は必ず駐輪ストッパーを掛けてください。
- 作業時にワイヤーが破損しないように注意してください。
- 車輪のナットの締め付けが緩いと脱落の恐れがあるので注意してください。
- 組立調整は確実に行ってください。

## 各部名称



## 部品交換方法

### ◆ブレーキゴム交換方法



- ① ブレーキゴムを車体の外側方向に少しづつ引っ張って外してください。  
無理に引っ張ると、ブレーキ金具が変形する恐れがありますのでご注意ください。  
(外れない場合は、ナイフ等でブレーキゴムの一部を切断すると外しやすくなります。)

ブレーキゴムの中央部を切断する



- ② 外した時の逆の手順でブレーキゴムを取り付けます。  
ブレーキ金具が変形しないように、金具の裏側を指で押さえてブレーキゴムを差し込んでください。  
(ブレーキゴムが入りにくい場合は、40℃以下で温めると入りやすくなります。)



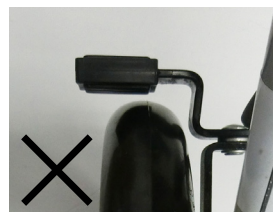
注意 ブレーキゴムの取り付け部に油やグリスを塗布しないでください。



- ③ ブレーキゴムの穴の奥に、ブレーキ金具の先端が届くまで差し込んでください。



注意 ブレーキ金具が変形して、外側に開いていないことを確認してください。



ゴムが奥まで入っていない



金具が変形している



注意  
・ブレーキゴム交換後は、必ずブレーキ調整を行ってください。  
・ブレーキは左右が同調するように調整してください。

## 調整方法

### ◆ブレーキ調整方法



高さ調節本体

① ハンドルの高さ調節を一番下にしてください。

※高さ調節本体が下にさがっている状態



駐車ストッパー

ハンドブレーキ

② ハンドブレーキを駐車ストッパーから外してください。

※ハンドブレーキが図のように、下へさがります。



調整用ネジ

③ 調整用ネジが一番下に下りているか確認してください。

※時計回りで隙間が縮まります。



④ ブレーキワイヤーの固定ナットを緩めてください。

※安全のため、ワイヤー先端はパイプ方向へ巻き込んでいます。

## 調整方法

固定ナット



ブレーキ金具「く」の字部    ホイール ラック溝

- ⑤ ブレーキ金具の「く」の字部がホイールのラック溝へはまるかを確認してください。

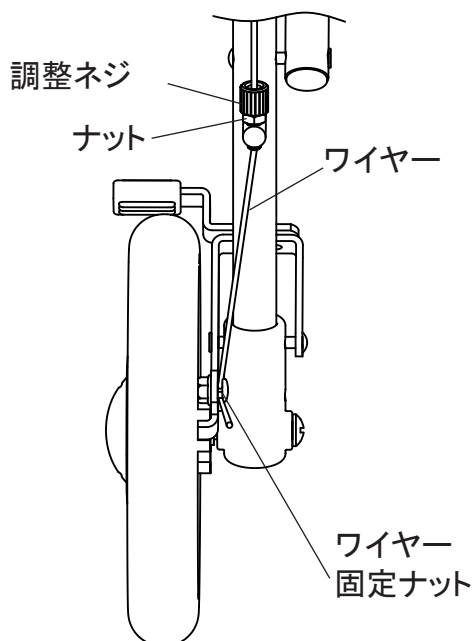
※ブレーキ金具またはホイールのラック部分が破損・磨耗している場合はブレーキが効かず事故につながる恐れがありますので、部品を新品に交換願います。



- ⑥ ブレーキワイヤーをプライヤー・ペンチ等で引っ張り、ワイヤーが張った状態で固定ナットを締め付けて固定してください。

※ワイヤー先端は危険ですので、本体パイプ側に巻き込むよう、お願いします。

※ワイヤー先端が破損している場合は、先端をテープ等で巻くか、人身に危険のないように養生してください。



- ⑦ 駐車ブレーキが効いているか確認してください。

※ブレーキ金具とホイール側ラック部にはあそびを設けており、多少のガタツキはありますが、ブレーキ金具「く」の字部が確実にラック溝に入っていれば問題ありません。

※ブレーキの微調整は、調整ネジで左右行ってください。調整は調整ネジ下のナットを緩めてから行き、調整後は再度ナットを締めてください。(左図)

※車体を数回前進・後退させて、効きの確認を行ってください。



ハンドブレーキを駐車ストッパーに掛けた状態

- ⑧ ハンドブレーキを駐車ストッパーに掛けた状態で、ブレーキゴムとタイヤの隙間を確認してください。

※ブレーキゴムとタイヤが緩衝するようであれば、再度調整を行ってください。隙間は、約1.5mmが適切です。

## 調整方法

### ◆ブレーキ調整方法 続き



- ⑨ ブレーキ金具とタイヤの隙間が広すぎたり、狭すぎる場合は、調整ネジで微調整してください。金具を変形させて隙間を広げることはしないでください。

※ 調整ネジは、反時計回りでワイヤーが張り、隙間が縮まります。



- ⑩ ハンドブレーキを握り、左右ともブレーキがかかっているか確認してください。

※ ハンドルの高さは3段階ですので、各高さで確認してください。

※ 稀にワイヤーのライン状態がブレーキに影響する場合があります。ワイヤーが左右対称のラインになっているか、パイプに異常な接触をしていないかを確認してください。

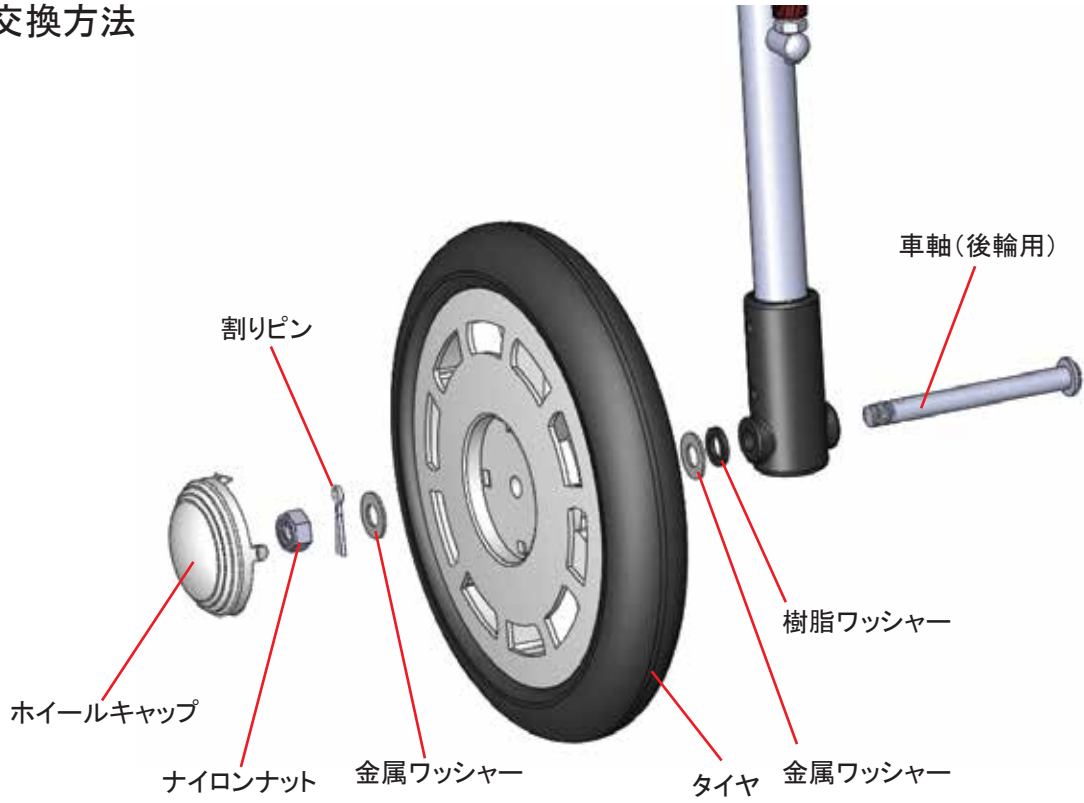


注意

ブレーキの調整後は、必ずハンドブレーキを操作し、ブレーキが確実に効くことを確認してください。

# 部品交換方法

## ◆後輪交換方法



① マイナスドライバー等をホイールキャップとタイヤの隙間に入れて矢印の方向へ外してください。(左図)

② プラスドライバーで車軸の頭を固定しながら、ナットを緩めてください。(下図)



車軸の頭



ナット

## 部品交換方法

### ◆後輪交換方法 続き



③ ペンチ等で割りピンを車軸から抜いてください。

※割りピンをまっすぐに矯正し、矢印の方向へ抜いてください。



④ ワッシャーを抜き、タイヤを外してください。

⑤ タイヤを新品に交換し、外した時と逆の手順で取り付けてください。

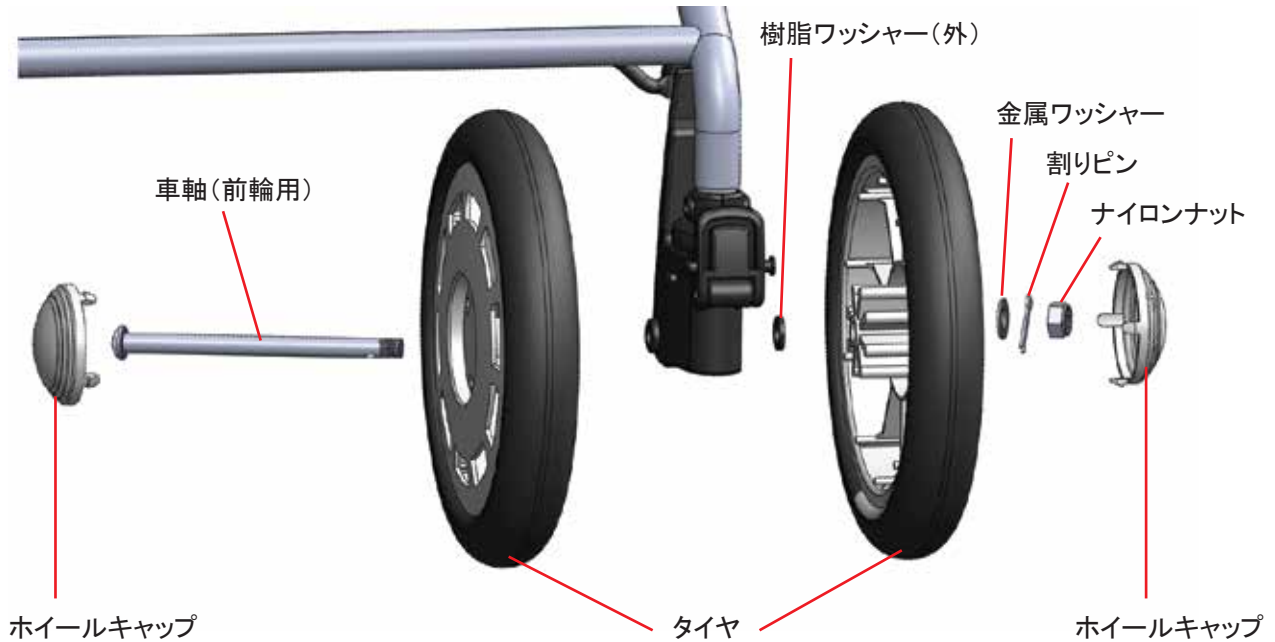
※割りピンを曲げ開いて車軸が抜けないようにしてください。

⑥ ブレーキ調整を行ってください。(調整方法はP4～P6)



## 部品交換方法

### ◆前輪交換方法



- ※前輪は、タイヤが2つになっているだけで、交換方法は後輪と同じです。  
(後輪の交換方法はP7~P8)
- ※前輪と後輪は使用している車軸の長さが違います。

### ご使用後のお手入れ・保管方法・廃棄について

- ・ 使用後は車輪に付いた水や砂などをふき取ってください。
- ・ 直射日光のあたらない冷暗所に保管してください。
- ・ 荷物を重ねたり、圧力が加わるような状態で保管しないでください。
- ・ お子様の手の届かないところに保管してください。
- ・ 製品を第三者に貸与したり譲渡したりする場合には、取扱説明書を必ず添付し、取扱方法を十分に説明してください。
- ・ 廃棄の際は、お住まいの自治体の廃棄物処理方法に従ってください。

製品の破損や異常を発見した場合は、ただちに使用を中止し、ご購入販売店もしくは弊社お客様相談室までご連絡ください。

そのまま使用しますと、重大な事故につながる危険があります。

**リーマン株式会社** 〒496-0911 愛知県愛西市西保町南川原 68-1

お客様相談室

**TEL.0567-27-0173**

受付時間  
月曜日～金曜日（祝日・弊社指定休日は除く）  
AM10:00～12:00 PM1:00～5:00